

アブデイア預言書

アブデイアはまたオバデイア（即ち天主の下僕）とも言ふ。ヨエルと同時代の人で、天啓をかきしるした預言者中最年長者の一人であつたらしい。彼の預言はエドム人に対するものである。

第一章

エドムが驕慢とヤコブになしたる非道との為に滅ぶること―イスラエルの救拯と勝利

一 アブデイアへの啓視。主なる天主エドムに就きてかく云い給う、我等主より知らせを聞けり、即ち彼国々の民の許に使者を遣し給えり、その曰く、起て、我等かれに起ち向かいて闘わん、と。二 視よ、我汝を国々の民の中にて小さき者となしたり、汝は大いに蔑視まるべき者なり。三 汝は岩の裂罅に住み己が座を高うする者、己が心の中にて、「誰か我を地に引き下さんや」と云う者にして、汝の心の驕慢は汝を思い上らしめたり。四 たとい汝鷲の如く揚がり、星の

一)ヘブレオ語「セラ」。近づき難い岩の間に建てられたエドムの町。

五 間に汝の巢を設くとも、我そこより汝を引き下さん、と主云い給う。五 もし汝の許に盜賊入り来り、強盜夜に入り来れりとせば、汝いかばかり黙したらん。彼等盜みたりとて、その身の満足するまでにあらずや。葡萄を摘む者たとい汝の許に入り来れりとするも、せめてその一房を汝に遺して去らざらんや。六 人々はいかにエサウ²⁾を捜し索め、その隠したる物を探り出したらん。七 彼等は汝を国境まで逐いやりたり。汝の盟を結べる人々は皆汝を弄べり。汝の睦める人々は汝に敵いて勝ちたり。汝と食を共にする者は汝の足下に弄を設けん。彼には先見の明なし。³⁾ 八 主云い給う、その日には我イドウメアより智者を、エサウの山より聡明を亡ぼさざらんや。九 南の地⁴⁾より出たる汝の勇士等は怯まん、そはエサウの山より人の滅び去らなためなり。一〇 汝の兄弟ヤコブ⁵⁾に對する殺戮と不義との為に、汝は恥辱の覆う所となりて、永遠に亡ぶべし。⁶⁾ 二 汝が彼

2) エドム族の代りにその祖の名が用いてある。—3) 国の指導者は滅びを逃れるのにどうしたらいいかなす所を知らぬであらう。—4) ヘブレオ語本は「テマンよ、汝の勇士等はひるむべし」。テマンはエドムの大都市の一つ。5) ここでもイスラエル族の代りにその祖ヤコブの名が用いてある。—6) 創二七・四二。

一七 敵に立てる日、即ち他国の者が彼の軍勢を擒となし、外国の者が彼の門に侵入り、イエルサレムに対して籤を抽きし時には、汝もまた彼等の中の一人の如くなりき。二三されど汝は汝の兄弟の日、即ち彼がその国を出る日に之を蔑視むべからず、ユダの子等に対して、その滅亡の日に喜ぶべからず、その患難の日に大口をきくべからず。二三また汝はわが民の滅ぶる日に、その門に入るべからず、その荒さるる日にその禍を蔑視むべからず、その荒らさるる日に出でてその軍勢を討つべからず。二四また汝逃ぐる者を殺さんとて、辻に立つべからず、その患難の日に彼等の残存者を閉じこむべからず。二五それ、主の日の万国の民に臨むこと近きにあり。汝のなしたる如く、汝にもせられ、汝の報は彼之を汝の頭に回らし帰し給うべし。二六實に汝等がわが聖なる山の上にて飲みたる如く、万国の民も絶えず飲まん。彼等かく飲みつ喫りつして、宛らあらざる如くなるべし。二七されどシオンの山には救拯ありて、そは聖なる所とな

一) イスラエルに勝つた祝いのために。他の説では主格の「汝等」は「ユデア人」をさすと。その場合はこの「飲む」は他の多くの箇所におけると同様、「苦しみの杯から飲む」の意。本節後半では確かにその意味である。

二) 滅ぼされるだらう。

らん。またヤコブの家は、彼等を占有したる者を占有すべし。

一八 ヤコブの家は火となり、ヨゼフの家は焰となり、エサウの家は

切株とならん、彼等は之に燃えつきて、之を焼き尽すべし。かく

一九 てエサウの家には、残る者絶えてあらし、と主云い給いぬ。一九南

方⁹⁾に居る人々はエサウの山を、平地に居る人々はフィリスト人

の地を承継がらん。なお彼等はエフライム地方とサマリア地方と

を領し、ベンヤミンはガラードを領し、10) 二〇 イスラエルの子等の

かの軍勢の中より擒われ行きたる者は、カナアン人の居る処をサ

レプタに至るまで悉く、ボスフォルス11)に居るイエルサレムの俘

虜等は南の町々を領すべし。三時に救う者等12)エサウの山を裁か

んとてシオンの山に上らん、しかして国は主の有となるべし。

9) ユダ王国。 10) イス

ラエルはユダの支配の

下に再び併合されて一

国となるだらう。

11) ヘブレオ語本「セフ

アラド」。小アジアの

西北部にあつたらしい

12) まずゾロバベル、エ

ズラ、マカベオ兄弟の

ような、イスラエル国

の復興者。次いで更に

メシアとその助力者た

ち。